

委員会行政視察報告書

委員会名	民生福祉常任委員会			
活 動 委 員 名				
畑山親弘	舛甚英文		氣田量子	
斉藤重美	堰野端展雄			
経 費 区 分				
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	合計金額
791,003		5,014	159,203	796,017
期 間 (年月日)	平成28年7月12日 ~ 平成28年7月14日 (2泊3日)			
視察事項	おのみち幸齢プロジェクトの取り組みについて			
	境港赤ちゃん登校日の取り組みについて			
	ブックスタートと読み聞かせの推進について			
視察先	広島県尾道市・鳥取県境港市			
内容及び成果				
<p>○尾道市の「おのみち幸齢プロジェクト」の取り組みについて この自治体でも少子高齢化社会の中でどうしたら一定の定数が得られるか、 またどうしたら安心して豊かな高齢生活をおくるにできるか、喫緊の課題で ある。現実政策として具体的には難しいかあると思われる。 当市にもいまだに一定の政策が検討されているが、いざとなるとなかなか行なえない 事業体である。</p> <p>その中で尾道市では高齢化率が22.6% (26年3月) で国が25.1% 大きく上り 70歳以上を構った全戸で29%に達している。その第一歩が「おのみち幸齢 プロジェクト」である。</p> <p>内容は3つの柱、1. 高齢者の生きがいづくり、2. 健康づくり(健康増進)、3. 安心 に暮らせる環境づくり) をテーマにして、平成27年度から取り組み始 り。他自治体と政策を異にする点に思われるのは、高齢者のニーズ に素直に打ち合わせる特徴で、従来の高齢者福祉の視点と異なり、</p>				

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感も別途作成し添付してください。

例として、高齢者の生きかたの(1)では、現役引退後の高齢者がスムーズに地域で活動できるきっかけづくりの講習会、日域時代を高める(2)の研修、講義の導入開始、ハヤキを活用した除草と農作業による健康維持の癒し、「はたこ」をテーマとする交流促進づくりなど、高齢者の能力や経験を活かせるよう取り組んで、高齢者の生きかたの形で運用されているのが、参考し易い事例である。

健康づくりで、1. 組合活動から高齢者の健康と交流に関する講習、2. スポーツを通じた健康づくりも実施、3. 外には楽しんで交流できるような講習、2. 研修の取り組み内容である。

また、見守りネットワーク(徘徊等505)も、既に取組(2)の場合と類似している場合の予備を示し、介護施設、医療機関、フリースクールなど関係機関の協力体制を築いていることが伺われる。

○ 境港市のフリースクールと赤紙ん登校日について

フリースクールは英国に由来する制度で、日本では2001年4月北は道東圏で始まった(国庫補助)9~10月、国庫補助、保健士やボランティアなどで行われていた)境港市では、平成24年度、読み聞かせボランティアの要望で「絵本で愛情に包まれる時間」をテーマとした「赤紙ん」をテーマとして、由緒が協力あり、6ヶ月間の予定時間を利用し、絵本の読み聞かせの場として始められた。平成25年度より「お腹の中」に「お腹の中」赤紙んとの種を採り下すこと、というメッセージを込め、絵本一冊をプレゼントした。また、2~3歳児を対象として「赤紙ん」が小学校に於ける「赤紙ん登校日」を設けている。

境港市では、妊娠時から子育て支援し、親子の生きかたを支援する力を発揮し、取り組みに積極的に取り組んでいくこと。こうした前進的な取り組みは「命の尊厳」「親子の絆」を大切にすることにつながっているように見られる。

最近、時代の進歩により、親子の絆が重視される中で、生きかたを支援することには、フリースクールは勿論、赤紙ん登校日も画期的な実践活動である。

民生福祉常任委員会

副委員長

日本共産党 舩甚英文

- 1、 日時 平成28年7月12日～14日
- 2、 研修視察場所 広島県尾道市・鳥取県境港市
- 3、 調査・視察目的
別紙のとおり

4、 調査結果と感想

I：尾道市：7月13日（水）9：00～11：00

- ①平成25年に「超高齢化対策プロジェクトチーム」が発足し、市長の命名による「幸歳者」対策を平成26年度から実施するべく、まずはチームづくりから始まった。
- ②高齢者福祉課から責任者及びメンバーが2人、政策企画課、環境政策課、健康推進課、情報システム課、総務課から各1人、市民税課2人の計10人体制。連携の必要な課もあるが、それ以外は本人がやりたいと思っている人材を積極的に登用した。
- ③副市長からチーム設立について趣旨の講話。メンバーには兼務事例を出さないまでも同様に扱う。勤務時間内であっても、チームの職務を遂行する必要がある場合は、本来の職場を離れることを認める。旅費の支給。時間外手当の支給。メンバーの所属長に対して事前に協力の指示をしてもらう。
- ④平成25年12月にはチームから「超幸齢社会おのみち」という提言書を出し、平成26年度から実施に移した。
アラウンド（おおよそ）還暦と2020年のオリンピックをもじった「アラ還ピック2020」は、60歳以上の市民対象の総合スポーツ大会（シニアのオリンピック）である。また、「目指せ！ウォー王（KING）！」で各種ウォーキングの促進、「出たもん勝ち」で外出を促し、好きな仲間と集う場づくりの『『バンコ』コミュニケーション』、山羊を飼育して耕作放棄地の除草対策を含めたヤギプロジェクトなどの「えんじゃないか農」などから、運転免許証の返納推奨まで、様々な楽しい命名での事業が目白押しである。スタッフたちが飲み会を重ねながらの夢のある企画を提案されている。
- ⑤感想として、当市でも出来ることがいろいろあると思われる。予算的には大したことはなく、企画・ソフトがポイントである。ぜひ学んでやりたいものである。

Ⅱ：境港市：7月14日（木）9：30～11：00

① 赤ちゃん登校日について

平成19年度から1校がモデル学としてスタート。対象の赤ちゃんは0歳児。児童の学年は、学校側が決定する。児童には事前の学習なども取り入れている。いろいろな難しさはあっても、結果は、児童にも赤ちゃんの親にとっても大変有意義な効果をもたらしている。それは、次の感想文によく表れていると思う。この小学生たちの10年後が楽しみである。

小学生の声

- ・自分のお父さん・お母さんに「今まで育ててくれてありがとう」って伝えたい。
- ・小さな命から大きな命までとても大切と分かりました。
- ・赤ちゃんとの交流でコミュニケーションや家族の大切さが分かりました。
- ・お父さんやお母さんには、子どもがすごく大切なことが分かりました。

親の声

- ・小学生の赤ちゃんを見る目が緊張から優しさへと変わっていった。私も良い母親に変わっていきたい。
- ・今は子育てに追われて10年後を想像できなかったが、小学校へ通うイメージがわいて、成長が楽しみに。
- ・小学生に、これから新たに子どもに向き合うことの意味や大切さを教えられた。

② ブックスタートと読み聞かせの推進について

境港市でのスタートは平成14年度という。読み聞かせグループからの要望で始まったという。「ハッピー子育て応援団」があることが、継続している秘訣と思う。

支援の流れ

- 絵本の読み聞かせ・・・母子手帳の受け取り時、6ヶ月検診時、1歳半検診時に絵本を渡す
- 命の大切さ伝え隊・・・助産師等が保育園・小学校などに出向いて命の大切さについて話す
- 人間関係作りの体験発表会（両親学級）
（プレ）パパ・ママ、コミュニケーション講座）
 - ・・・育児不安、子どもとの関係悩み
 - 自分と向き合う、子どもと向き合う、自分が変わる

③ 感想として

どちらの事業も、財政的には大した額ではなく、この企画を立案し応援隊を組織するソフト事業が求められる。例えば十和田市でいえば、子育て支援課が中心となり、保健センターや教育委員会などと連携を取りながらすすめることになろうかと思われる。「赤ちゃん登校日」については、鳥取大学医学部総合医学教育センターの高塚人志准教授が素晴らしい提案を行っている。

当市としても可能な施策であると思われる。関係部局と話し合いの場を持ちたいものである。

以上

委員会行政視察報告書

民生福祉常任委員会

氣田 量子

日時 平成28年7月12日～14日

視察先 広島県尾道市・鳥取県堺港市

・おのみち幸齢プロジェクトの取り組みについて

尾道市の高齢者比率は31.6%と国の24.1%を大きく上回り、その対応については一刻の猶予もない状況にあります。

超高齢社会というマイナスイメージから脱却し、歳を重ねることに幸せを感じられる社会の実現を目指す。その為には、人生90年時代を前提として、介護を必要としない約8割の元気な高齢者に、いかに健康で生きがいを持って暮らし続けてもらうか、また、介護が必要となった場合でも、先進的な包括ケア体制など尾道の強みを活かしながら、安心して暮らしていける環境をいかに整備していくかが鍵となる。

「超幸齢社会 おのみち～住み慣れた地域で健康でいきいきと安心して暮らせるまち尾道の実現～」をコンセプトに、2020年オリンピック開催の年をターゲットとして、ここ尾道では高齢者がま

ちづくり・地域づくりの主役となっているような活力あふれる都市を目指すこととした。

実現可能性のある具体的施策を次のとおり提言する。

○健康づくり（介護予防）

- ①学校給食へ行こう
- ②シルバーリハビリ体操
- ③アラ還ピック 2020
- ④目指せ！ウォー王（KING）！
- ⑤出たもん勝ち

○高齢者のいきがづくり

- ⑥地域プロデューサー養成講座
- ⑦復活！「ばんこ」コミュニケーション
- ⑧結成！「ばんこ」コミュニティ
- ⑨幸齢者学校
- ⑩「幸齢者」保育士さん
- ⑪笑顔とどけ隊
- ⑫えんじゃないか農

○安心に暮らすための環境作り

⑬おのみち見守りネットワーク

⑭運転免許の返納推奨

どれもあまりお金がかからず、高齢者が喜びそうな、元気になる施策ですぐにでも十和田市で実現出来るような内容だと思います。ただ、普段の業務をやりながらプロジェクトチームがやりやすいように副市長はじめ、各部課の協力体制があつてこそその実現なので、そこがクリアできることが、尾道市職員の素晴らしい所であるし、良いチームワークだと感心致しました。

中でも、ヤギをレンタルして草を除草するヤギプロジェクトは大変面白く、どのように貸し出すのか、ヤギは普段どこにいるのか、質問致しました。また、柵がない所だと逃げたり、野犬が襲うなど危険もあるので、つないだりして除草をするそうです。十和田市でも始めたら、我が家もレンタルしたいなあと考えています。

最後に、説明されたプロジェクトチームの西門さんの説明が大変素晴らしく、わかりやすく理解する事が出来た事が印象的でした。

・堺港赤ちゃん登校日の取り組みについて

堺港市では、小学校と健康促進課が連携し、小学5，6年生の児童と、赤ちゃんとその保護者が触れ合う「赤ちゃん登校日」という授業を実施。複数回の授業を通じて、同じ親子と児童がパートナーになり、コミュニケーションを深めていきます。

子ども達は、赤ちゃんと関わりながら、自分がこれまでどれだけ周りの人たちから愛され、見守られて成長してきたのかを感じ、また、「まだ会話でのやり取りが出来ない赤ちゃん」とふれあう中で、思いやりの心や人とのコミュニケーションの図り方などを学びます。

全体の流れ

- 4月 学校・保護者・行政・地域の理解と連携
- 8月 赤ちゃん（0歳児）の募集等
- 9月 第1回授業（事前学習）100～110分
- 9月 第2回授業（赤ちゃんとの関わり体験①）
- 10月 第3回授業（赤ちゃんとの関わり体験②）
- 11月 最終授業（赤ちゃんとの関わり体験③）

ニュース等で若い夫婦等による乳児虐待などの報道を見るたびに心が締め付けられる思いが致します。そうしたことが無くなるよう

に、また、いじめなどの問題にもこの取り組みは大変効果があると思いました。弱いものを守る気持ちや、家族の大切さなど赤ちゃんとのコミュニケーションを通して学ぶことが出来る授業です。ご近所との希薄化が進む現代にとって必要な取り組みなので、大変勉強になりました。

・ブックスタートと読み聞かせの推進について

境港市ではブックスタートが始まったのは、2002年4月。きっかけは、読み聞かせのボランティアグループからの要望でした。絵本を通して、赤ちゃんが親の愛情に包まれる幸せな時間を持つということ、それは親子にとって、かけがいのない時間になるだろう、すべての赤ちゃんのもとに絵本を届ける活動として、子育て支援課や図書館、教育委員会、福祉課といった、子どもに関係する各部署と複数のボランティアグループで「ブックスタート連絡会」を設立。行政の機関どうしが横でつながり、市民と行政が協働する事業として現在も続けられている。

○ブックスタートとその前後の主な取り組み

① 妊娠期からの読み聞かせ事業（母子手帳交付時）

妊婦向けの絵本を一冊プレゼント

② 両親学級

プログラムの一つとして絵本の読み聞かせを実施

③ ブックスタート（6か月児健診時）

絵本が入ったブックスタート・バックを手渡す

④ ポリオなどの予防接種

待合スペースに絵本を配置

⑤ ブックスタートプラス（1歳6か月児健診時）

絵本1冊手渡す

ブックスタートは本を通した子育て支援です。子育ての現状として虐待を受けている子どもや、落ち着きがなく集団にうまく入れないなど、行動面や社会性が気になる子どもの存在があります。こうした現状から見えてくるのは、親子関係を築くことの難しさです。ブックスタートは親子がコミュニケーションをとるときの、具体的なツールになります。お父さんやお母さんからの声かけは赤ちゃんにとって親の愛情を感じて安心できることです。

境港市は行政と市民が一緒になって安心して親子が暮らせる良い事業をしていると思います。

委員会行政視察報告書

委員	堰野端展雄			
活 動 委 員 名				
畑山親弘		舛甚英文		氣田量子
斉藤重美		堰野端展雄		
経 費 区 分				合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	
791,003		5,014	159,203	796,017
期 間 (年月日)	平成28年7月12日 ～ 平成27年7月14日 (2泊3日)			
視察事項	1、おのみち幸齢プロジェクトの取り組みについて			
	2、境港赤ちゃん登校日の取り組みについて			
	3、ブックスタートと読み聞かせの推進について			
視察先	広島県尾道市 鳥取県境港市			
内容及び成果				
1、おのみち幸齢プロジェクトについて				
尾道市は平成26年3月末で高齢化率32.6%（国25.1%。当市は平成26年9月で28%）と急速な高齢化の進展に危機感を抱きつつも、「超高齢化社会」という言葉の持つマイナスイメージから脱却し、2020年オリンピックの開催年には、歳を重ねることに幸せを感じられる「幸齢社会」が実現することを目指している。				
そのためには「高齢者の生きがいづくり」、「健康づくり（介護予防）」、「安心に暮らすための環境づくり」の3本の柱を全庁的なテーマとして、実現可能性のある具体的施策を展開するとした。いくつか例をあげる。				
学校給食へ行こう！				
高齢者の約6割が独居及び高齢者のみの世帯であり、今後ますます、孤食や低栄養の問題が顕在化すると予想されることから、栄養バランスがとれた給食を食べながら、同世代や子ども達とふれあう機会をつくることで、高齢者の低栄養による身体能力の低下等を防ぐとともに、新たな交流による生きがいの創出を目指している。				
復活！「ばんこ」コミュニケーション				
地域との関わりを望む高齢者が多い一方で、コミュニティ活動の拠点となる施設（公民館				

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感は別途作成し添付してください。

・集会所)の整備状況には地域差があり、かつ利用者が固定されている現状がある。そこで、地域で気軽に集える場として、古くからの集いの形態「ばんこ」をコミュニケーションの場として復活させ、高齢者の生きがいを創出している。これは、間接的な「見守り」になっている。

えんじかないか農

超高齢社会に突入し、農業・漁業現場の高齢化はさらに深刻な状況となっている。一方で、農作業による健康維持や癒しといった機能が近年注目され、退職した高齢者が第二の人生において、農作業に従事することも多い。そこで、耕作放棄地や空き地等を活用して農業再生の取り組みを行い、高齢者の生きがいを創出。特に力を入れていたのが「ヤギプロジェクト」これは、ヤギを飼育し、耕作放棄地等の除草をしたり、学校に貸し出す等することにより、ふれあいや交流が生まれているとのこと。

今回、最も感心したのはこの事業を進めるプロジェクトチームの設立の経緯である。市長・副市長が自ら各部課長に設立趣旨を説明し、協力するよう指示したことにより、PTのメンバーがPTに参加しやすい状況をつくったとのこと。これにより、PTの発想も今までにないものが生まれているようで、まさにWin-Winである。

2、赤ちゃん登校日・「ブックスタート」について

赤ちゃん登校日

人間関係が希薄になりつつある時代に加え、少子高齢化や核家族化などによって、家族のあり方や地域社会の結びつきも変わり、多くの子どもたちが家族の一員として責任ある手伝い体験や異世代の人間関係を体験することなく育つ時代。まさに、幼いころからそばにいる人に関心を持ち、心から人と真剣に向き合う大切な対人関係のトレーニングが、あまりにもできない状況になっている。

こうした実態に鑑み、人間関係が希薄になりつつある時代にあっては、意図的に児童・生徒に異世代（赤ちゃん）との関わり体験の機会を継続的につくり、「他社への関心」「みる」「きく」「伝える」という人間関係の基礎を土台に据えて、小さな命に責任を持ち、子どもたちが命の尊さや他者への愛情を深く認識したり、コミュニケーション能力を高める学習をし、意図的に自分とそばにいる人を大切に思う気持ちを育む場を設けることが必要であり、まさにその場が赤ちゃん登校日である。

境港市では小学校7校中、6校で実施。参加した小学生は、「自分のお父さん・お母さんに今まで育ててくれてありがとうと伝えたい」とか「赤ちゃんとの交流でコミュニケーション力のアップや家族の大切さがわかった」等の感想がり、親子からは「自分の子が小学校へ通うイメージがわいて、成長が楽しみになった」「小学生にこれから新たに子どもに向き合うことの意味や大切さを教えてもらった」等の感想があり、参加者の90%以上が満足しているとのこと。当市でもぜひ取り組みたい事業である。

委員会行政視察報告書

委員会名	民生福祉常任委員会			
活 動 委 員 名				
畑山親弘		舩甚秀文		氣田量子
齊藤重美		堰野端展雄		
経 費 区 分				
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	合計金額
791,003		5,014	159,203	796,017
期 間 (年月日)	平成28年7月12日～平成28年7月14日 (2泊3日)			
視察事項	おのみち幸齢プロジェクトの取り組みについて			
	堺港赤ちゃん登校日のとりくみについて			
	ブックスタートと読み聞かせの推進について			
視察先	広島県尾道市・鳥取県境港市			
内容及び成果				
おのみち幸齢プロジェクトの取り組みについて				
尾道市は広島県の東南部、瀬戸内海のほぼ中央に位置し、山陽自動車道、瀬戸内しまなみ海道に加え、平成26年度に全線開通した、中国やまなみ街道(中国横断自動車尾道松江線)により広域拠点としての機能は高まりつつあり、「瀬戸内の十字路」としての発展が大いに期待されています。				
おのみち幸齢プロジェクト事業概要				
高齢者の生きがいづくりとして、地域活動実践者育成事業・幸齢者学校・ええじゃないか農・高齢者の居場所事業(復活!「ばんこ」コミュニケーション)・おのみち「今昔」域・活事業				
健康づくり(介護予防)として、ふれあい給食事業・シルバーリハビリ体操事業・幸齢ウォーキング推進事業・60歳からのサイク輪(リング)・黒崎水路いきいきロード整備事業・出たもん勝ち・アラ還ピック				
安心して暮らすための環境づくりとして、認知症等高齢者見守りネットワーク事業				
住み慣れた地域で住んで良かったと、健康でいきいきと安心して暮らせる街づくりの実現に向けて頑張っている尾道市の状況を視察させて頂きました。				

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感は別途作成し添付してください。

